

第 8 1 回宇宙理学委員会 議事録

日時： 2023 年 2 月 13 日（月） 10:00～12:20

場所： オンライン開催（ZOOM）

出席者：

委員：倉本（委員長）、山崎（副委員長）、阿部、笠羽、清水、福家（以上幹事）、井口、今村、上野、白井、齋藤（義）、関、関本、中川、中村、松浦、三好、山口、山田（亨）、米徳

説明者：船木、津田、宮崎、鳥生、黒川、渡邊（太陽系 GDI による時限 WG）

宇宙研：國中所長、深井理事補佐、佐藤 PD、吉田研究総主幹、小川科学推進部長、大井田研究基盤・技術統括

事務局他：加持計画マネージャ、渡辺主任、上田主査、上野 PO 室長、岸主任、東方主査、早川、根本

配布資料：

- 資料 0 第 81 回宇宙理学委員会議事次第
- 資料 2-1 第 80 回宇宙理学委員会議事録
- 資料 2-2 理学委員会 A/I 表
- 資料 3-1 宇宙理学委員会委員候補選出要領
- 資料 3-2 （参考）宇宙理学委員会運営要領
- 資料 3-3 （参考）理学委員会_委員連続任期数
- 資料 3-4 【理学委員展開用（取扱い注意）】2022 年度理学メンバ現況
- 資料 4 FY2023_理学戦略経費公募要領（案）
- 資料 5-1 GEOTAIL プロジェクト終了科学評価会報告
- 資料 5-2 「ひので」プロジェクト終了・後期運用延長審査中間報告
- 資料 6-1-1 太陽系分野 GDI 報告
- 資料 6-1-2 時限 WG 設置の GDI 提案_次世代小天体 SR
- 資料 6-1-3 時限 WG 設置提案書_20230203_提出版 A
- 資料 6-2 宇宙物理 GDI 活動報告
- 資料 7-1 FY2022_小規模計画提案募集要項（案）
- 資料 7-2 初代銀河探査機 RG の終了について（報告）
- 資料 7-3-1 宇宙理学メンバ登録について
- 資料 7-3-2 宇宙理学メンバ退会について

1. 所長挨拶

- 学術コミュニティ（日本惑星科学会、高赤天連、高宇連など）に留まらず企業（明星電気、NEC、三菱電機、アークエッジスペースなど）とも対話を進めている。経済面やサプライチェーンの乱れなど、科学や技術に留まらない昨今の課題を共有し、事業化が難しい宇宙科学ミッションをメーカーが担当するために ISAS がどういう貢献ができるのか検討している。

2. 前回議事録および A/I 確認

- 前回議事録（資料 2-1）はメール回覧済み。委員会においてコメントは無く承認された。
- A/I 表（資料 2-2）(No.67~75)の状況が報告された。No. 68、69、70、74、75 は CLOSE。

3. 次期理学委員会委員選定に向けて（審議）

- 倉本委員長から第 11 期宇宙理学委員候補者選出委員会の委員候補者 6 名が提案され、異議なく承認された。
選出委員会は、投票結果を踏まえ、分野間バランスも考慮して選出を行う。
- 山崎副委員長から理学メンバリストの状況が報告された。
メールが不達のメンバが多数いる。委員に情報提供（事務局宛）を求める。リストを整備する。(A/I No. 75)
今後メール不達が 5 年程度続く場合にメンバ資格を保留にする方式を提案する。

〈質疑〉

関委員：毎年度末にメンバ登録継続の意思を確認する方法を提案する。

倉本委員長：検討する。

- 連続 3 期を超えて再任できない規程が次期に初めて適用される旨、倉本委員長から説明され、再任されない委員の一部（委員会にて重要な役割を担ってきた委員として現委員長、ISAS 研究系主幹など）に関してオブザーバ参加を認めることが提案された。

〈質疑〉

中川委員：オブザーバの範囲や議決権を持たないことなどを規定する必要がある。

倉本委員長：次期委員会への引継ぎ事項とする。

笠羽幹事：連続 3 期の規程ができた経緯と今回初適用する旨を再確認しておきたい。

山田委員：職責指定オブザーバを設ける場合、その役割を明確化するべき。

関委員：ISAS 教職員は人数も限られており、連続 3 期の規程に対応できるのか要確認。

4. 2022 年度戦略的開発研究費の報告書提出と 2023 年度提案募集について（審議）

- 上野戦略的開発研究費審査委員長から提案募集案が説明され、了承された。
公募型小型の選定が落ち着くのを待つため例年より日程を遅らせている。
2022 年度の活動を評価したうえで 2023 年度の活動を早期に実施できるよう配慮。
戦略的中型を目指す時限 WG は本公募の対象外。

〈質疑〉

中川委員：時限 WG の活動費も含めた全体の予算配分はどう決めるのか。

上野委員：時限 WG の費用見込みを得たうえで、戦略的開発研究費審査委員会で柔軟に議論する。

関委員：理工に跨るミッションもある。理学委員会・工学委員会の予算の垣根はどうするのか。

上野委員：工学委員会とも連携する必要があると認識している。

5. 科学衛星終了・後期運用延長審査関係（中間報告）

(1) 磁気圏尾部観測衛星「GEOTAIL」プロジェクト終了科学評価委員会

- 中村評価委員長から中間報告があった。2 月末までに評価結果が纏められる予定。

(2) 「ひので」プロジェクト終了・後期運用延長科学評価委員会

- 三好評価委員長から中間報告があった。2 月末までに評価結果が纏められる予定。

〈コメント〉

佐藤 PD：両委員会からの評価結果を受けて 3 月 17 日に JAXA としての終了・延長審査を実施予定。

6. GDI 活動について

(1) 太陽系 GDI（時限 WG 設置について）（報告・審議）

- 今村委員から報告された。

時限 WG「次世代小天体サンプルリターン WG」の設置を提案。

「火星地下水圏探査」に関しては具体的な進め方を引き続き議論中。

- 倉本委員長から審査小委員会での審査結果として、工学委員会 WG と連携することを確認したうえで理学委員会にて承認を諮る旨が報告され、設置が承認された。

〈質疑〉

佐藤 PD：「火星地下水圏探査」の今後の見通しは？

今村委員：まだ具体化できていない。

関委員：戦略経費など柔軟に資金投入できるスキームができると良い。

佐藤 PD：ISAS としても理学・工学委員会に柔軟にやりくりして頂きたい。

笠羽幹事：研究系主幹の役割が重要。

山田委員：GDI や戦略的開発研究費審査委員会も含め連携していきたい。

斎藤委員：コミュニティとも連携しつつ ISAS 内の調整を進めていきたい。

渡邊 GDI 委員：時限 WG とそれ以外の WG の資源配分の決定に ISAS がどう関与するか明確化が必要。また、全ての時限 WG は理工連携であるべきと考える。

佐藤 PD：GDI 幹事と密に連携している。予算の財布は 1 つだが、柔軟に運用したい。理工連携は重要。

山口委員：理工連携の重要性と 3 つの GDI に分けたこととの整合性を確認したい。

佐藤 PD：理工の連携は必須ではないが、複数 GDI の連携を推奨する。

山口委員：選ばれないミッションの扱いはどうなるのか。

佐藤 PD：ミッションは 1 つに絞るべきだが、選ばれないミッションに関してはまだ議論の俎上に上がっていない。

今村委員：議論のためには適切な規模がある。

山崎副委員長：議論は先ず少数で議論したほうが良いと考えて制度設計した。議論に参加するメンバは適宜調整していけばよい。

佐藤 PD：ミッションを実現するための体制を組んでいるか、広範な学術成果が期待できるか、という観点は重視されるだろう。

笠羽幹事：戦略経費の審議は理工合同を希望するか？

津田主査：合同での実施は効率的だが現状では合同での実施は難しいと考える。

笠羽幹事：GDI がスキームを構築する側に回るべき。

津田主査：理工双方の WG 検討のベクトルを整合させるメカニズムが必要。

清水幹事：理工合同の場合に評価の対象を整理する必要。

津田主査：理工それぞれの範囲を明示したうえで報告し評価して頂きたい。

黒川代表：同様の考え。

清水幹事：時限 WG 設置提案書では切り分けが分かりづらかったので戦略経費申請の際は工夫してほしい。

山田委員：成立性の高いミッションを考えるのが GDI の重要な役割。

山口委員：理工連携が重要であることに全く異論はないが、両コミュニティのベクトルを無理に揃えようとすることで理工いずれにとっても純粋な科学的意義が犠牲になることを懸念する。

倉本委員長：理工の連携は様々な形が考えられる。

(2) 宇宙物理学系 GDI (報告)

- 上野 GDI 長から所感とともに報告された。
宇宙科学全体に視野を広げてミッション創出を議論する必要。健全な新陳代謝やコンサバティブな資金計画、ハードウェアのみならずミッション全体で計画を高めることなども重要。海外ミッションへの参加に困難さを伴うことも留意。

7. その他

(1) 2022 年度公募 小規模計画について

- 吉田研究総主幹から 2022 年度公募発出の小規模計画提案募集案が説明された。
公募内容は例年同様。
提案内容にもよるが、予算プロファイル的には 1~2 件を採択できる見込み。
評価委員会の人選は、理工委員会の任期を跨ぐため、今期の理工委員長とも相談する。

(2) 初代銀河探査機検討 RG の終了について

- 山崎副委員長から報告され、承認された。
初代銀河探査機検討 RG は 2020 年 1 月に設置された。
宇宙物理 GDI による時限 WG として「銀河進化・惑星系形成観測ミッション WG」
の設置が承認されたことを受け、RG の活動を終了する。

(3) 宇宙理学メンバ登録（審議）、退会（報告）

- 山崎副委員長から新規登録 3 名が報告され、承認された。
- 倉本委員長から退会者 19 名が報告され、承認された。

(4) その他

- 今期中の委員会開催はこのあと予定されていないが、追加開催される可能性がある旨、事務局から報告された。